

死者と語らう

死者の日 — El Día de Muertos —

▶死者の日には美しい祭壇が用意され、様々な意味が込められた供物が並ぶ

(写真：El altar para Frida Kahlo / フリーダ・カーロのための祭壇 @Coyoacán)

●切り絵

生きている人と死者の連結を示す

●コーバル樹脂のお香

生と死を結ぶ通路となり、悪い心のあり方、考え方を遠ざける

●塩の入った皿

汚れた魂を浄化する

●石灰の十字架

4つの方角を示す

●花の道

魂を祭壇へと導く

●おもちゃ

子ども達の魂を楽しませる

●蝋燭

精神の昇天、魂を祭壇へと誘う愛の象徴

●水の入ったコップ

魂の悲しみを和らげ、魂にこの世界に帰ってくるための力を与える

●パン・デ・ムエルト

大地から魂への贈り物

●花

白：天を表す / 黄 (マリーゴールド)：大地を表し、死者をこの世界に誘う / 紫：哀悼、悲しみを表す

●頭蓋骨のお菓子

家族の別離を表す。砂糖やチョコレートでできている。

●酒や食べ物

死者の魂の到着を祝う。代表的な供物としては、米、モレ(伝統的なソースのようなもの)、カボチャ、オレンジ、マンダリン、サトウキビ、サンザシの実、ヒカマス(イモの一種) など

その他 遺品、写真 etc.



メキシコの11月1日、2日は「死者の日」。1日には亡くなった子ども達の、2日には亡くなった大人達のそれぞれの魂(alma)が、この世界に帰ってくる日です。学校や仕事はみーんなお休み。お墓で、お家で、そして広場で、死んでしまった大切な人達の魂の到着を祝い、再会を喜び、その魂と家族の近況を語り合います。日本のお盆みたい？

そうかもしれません。ただし、
**食べて、飲んで、酔っぱらって、ギターを弾いて、
叫んで、歌って、踊り狂う必要があります。(もう驚かない。)**

広場や街中は文字通りの大騒ぎ。メキシコシティでは今年初めての試みとして、独立記念塔からソカロを結ぶ大通りで大規模なパレードも実施されました。私も友人達と見に行きましたが、宙には色とりどりの紙吹雪が舞い、ある人々は謎の雄叫びをあげ、ある人々は激しく踊り、その合間をあまりにもキュートな骸骨達が意気揚々と闊歩する、というなかなかカオスな様子を(笑)目にすることができました。熱気とあまりの人の多さに、自分の方が死者になってしまうのではないかと冷や冷やしましたが、生き

て帰ってこれたのでよかったです。笑

**“死者の日は悲しい日じゃない、嬉しくて楽しい日
なんだよ。みんなが帰ってきてくれる日だから。”**

私が今期お世話になったとある先生（ところで彼はすごくダンディだった…）は、ある日大量の骸骨が愉快地踊っているふざけたTシャツを着て颯爽と授業に現れ、図書館の本棚のように整った笑顔を浮かべて、こう教えてくれました。そして今、実際にメキシコの死者の日を過ごしてみた個人的な感想としては、彼の説明は半分は正しかったけれど、でも半分は嘘だったなど、でもだからこそ、ある意味では酷くリアルな説明だったのかもしれないなど、そんな風を感じています。

例えば、死者の日の墓地で響き渡るマリアッチの音楽はいつもと変わらず力強く、賑やかで、人々はそれに合わせて、時々気持ち良さそうに身体を揺らしていました。けれど友人がわたしのためにその歌詞をゆっくりと復唱してくれたとき、それが恐ろしいほど悲しみに溺れ青ざめた、未来を感じさせないものであることに気付いたりもした。「ただの歌」かもしれないけれど。

あるいは、今やメキシコの死者の日は世界中の人々に知られていて、その極彩色の祭りに、響き渡る音楽に、ろうそくに宿る暖かなオレンジに、死への独特の感性に・・・みんなすっかり魅せられている。すると時々、わたしのような(生きてはいるがどこか空けた)人間が何かを求めてふらふらやってきて、メキシコの人達はそれをワイワイと受け入れてくれる(ように見える)。でもその喧噪の中で座り込む、明らかに飲み過ぎてしまった風のおじさんは、「外国人が何しにきた、お前らの来る場所じゃない」とぼやきはじめる。「ただの酔っぱらい」と切り捨てるには、彼の姿はわたしにずっとしりこめた。ああ、確かにその通りかもしれないと思ったし、少なくとも彼にとって死者との語らひは、祝福と喜びに満ちているから色や音楽、笑顔によって彩られていたのか、それとも、そうして飾らずには成り立たない程悲しみや寂しさに満ちていたのか、どっちなんだろうと考えました。そんなの誰にも分からないことで、そしてわたしには、悲しいほど無関係なことですけどね。

とかまあこんなことをメキシコ人の友人に話していたら、お前はまずオクタビオ・パスを読め！と迫られました。12月は長期休暇もあるし、ちょいとばかり、勉強しますか…。



Pan de Muerto

パン・デ・ムエルト

▼ 友達の家で、一緒にパン・デ・ムエルト（死者のパン）作りにも挑戦してみました！！オレンジの皮をたっぷり使って（削るのは超大変…）、香りのいい、甘くてふわふわのパンに焼き上げます。もともと「お手伝い」の名の下でお邪魔したのですが、メキシコ人の手際の良さたるや...お手伝い（という名のお邪魔虫）は明らかに不要でした 笑 とってもとっても楽しかったですけどね***

このパンの独特な装飾は、故人の骨と流れる涙のしずくを表現しており、オレンジの香りの中には故人の榮譽がつまっているのだとか。さらに、パンの丸みは、生と死の循環を表現しています。



あつという間に家の中はパンだらけ・・・サイズは人の顔くらいあります 笑